

## NGO活動環境整備支援事業 評価と改善案②：NGO研究会

（NGO外務省定期協議会 連携推進委員会事務局作成）

### 評価：案件形成・実施に直結する基盤環境整備

#### ①活動環境の整備…NGO間ネットワーキングの進展

- ・JNNE、JANARD、スリランカ復興など分野別・課題別のネットワーク形成
- ・海外ネットワークとの関係形成
- ・各課題・地域への関心喚起・広報

#### ②案件形成能力の向上…ノウハウ共有・調査研究・各種研修

- ・援助活動における課題の共有
- ・プロジェクト形成調査への参加
- ・各種の専門家との接触・開発手法の取得
- ・海外研修の実施
- ・プロジェクト実施情報の共有

#### ③現地プロジェクトの促進…案件形成・共有ツール開発

- ・日本NGO支援無償資金協力・JICA草の根技術協力への申請
- ・ガイドライン・マニュアル・PDMの開発

### 改善案：具体的成果をあげるための要望

#### ①NGO研究会制度の目標提示…各年度の場当たりの対応の回避

⇒ODAの目標・方針・各種イニシアティブ達成とNGOの活動のリンケージ

#### ②各テーマ選定への寄与…キャパシティ・ビルディングの対象の集中と選択

⇒非公式検討会などを通じたNGO側へのニーズ・ヒアリング実施

#### ③具体的目標・指標の設定…具体的な獲得成果の確保

⇒具体的成果物（プロジェクト実施ガイドライン・PDMなど）

⇒数値目標などの評価指標を設定（当該課題関連案件数の増加など）

#### ④数カ年のコミットメント…キャパシティ・ビルディングの段階的達成

⇒運用による複数年のコミットメント

- （例）
- ・1年目…ネットワーク形成・インセンティブ形成
  - ・2年目…調査研究・ノウハウ共有
  - ・3年目…案件形成・共有ツール開発・提言提示

#### ⑤各種支援費用の見直し…現実に即したコストの算出

⇒後払い方式の緩和（資金繰りの困難）

⇒専門家への人件費計上・海外研修での食費計上

#### ⑥事業内容の評価…研究会スキームの効果測定

⇒各年度末に設定指標の達成率の検証

⇒次年度研究会テーマ・目標設定への反映

### <資料3> NGO研究会アンケート・ヒアリング回答集計

- ・実施期間：2005年9月21日～10月6日
- ・アンケート作成・集計：NGO外務省定期協議会 連携推進委員会事務局
- ・ヒアリング：2005年10月7日（於 JANIC事務局）
- ・アンケート回答提出団体（受託団体名・業務受託年度）

- ・保健分野NGO研究会（02-04：HIV/AIDS）  
アフリカ日本協議会（AJF）・稲場雅紀（AJF）
- ・教育研究会（01-04）、災害復興研究会（05）  
教育協力NGOネットワーク（JNNE）・伊藤解子（社：シャンティ国際ボランティア会）
- ・農業・農村開発研究会（01-04）  
JANARD 財団法人オイスカ・高橋径子（JANARD 事務局）
- ・国別NGO研究会（スリランカ）（03年9月～04年3月、04年9月～05年3月）  
スリランカ復興開発NGOネットワーク・新石正弘、山崎久徳（BAJ）

## A 【成果】

### （1）参加当初の獲得目標

- ・農業、農村開発に関する見識を高める。
- ・他のNGOが現場レベルで実践していることの経験から学びあう。
- ・具体的にJANARDとして、もしくはメンバー団体同士のプロジェクトを立ち上げる。
- ・HIV/AIDSに関する政策提言・案件実施ノウハウの共有・案件形成

### （2）成果および成果物

- ・報告書
- ・他団体と現場同士の交流ができた。
- ・実際にプロジェクトを立ち上げることが実現しそうな兆しが見えてきた。
- ・スリランカに関わるNGOのネットワークの強化・拡大
- ・スリランカ復興開発のための研究活動
- ・案件形成（アフリカ：ワールドビジョン、アジア：ジョイセフ）
- ・JANARDとしてPDMを完成させ、それを元に今年度、JANARDとしての案件形成+申請にいたっている

### （3）副次的成果

- ・JNNE活動の広報
- ・ネットワークは確実に拡大した。
- ・上記の目標はほぼ達成できたと考えている。
- ・一貫したテーマ研究による案件形成能力の段階的向上

### （4）終了後の裨益効果

- ・会員団体の事業運営
- ・メンバー団体同士で専門家を現場に送りあうなど。
- ・現在もスリランカ復興開発NGOネットワークは活動を継続しており（事務局は本年4月よりPARC）、JICAやJBIC等も時々参加している
- ・HIV/AIDS課題の重要性や優先順位向上

#### (5) 団体の能力強化

- ・事業運営の参考・ネットワーク拡大・広報
- ・プロジェクト形成調査に参加し、他団体のそれぞれの分野の専門家の方々と喧々譁々をしたことで、NGOとしての開発に関する基本的な姿勢の再認識することができ、またプロジェクトサイトに尋ねていただいたことでいろいろと農業手法に関するアドバイスもいただけた。
- ・ネットワークが広がったという意味では能力強化になったが、それなりに大変だった。

### **B 【運用】**

#### (1) テーマ設定方法

- ・テーマの分野設定が狭い。今年度について、事前には「災害復興」と広い分野設定であったものが、説明会から「自然災害復興（文章などでの記述はなし）」とされた。広い意味で準備していたため、対応に困難があった。
- ・テーマ設定はそれぞれのネットワーク自身で策定することができたので、本当に学びたいと思える内容を設定することが可能だった。
- ・事前のNGO側との非公式検討会が望ましい。最後は外務省側だけで決めても、NGOの基盤整備が目的なので、NGOとの密接な協議が望まれる

#### (2) 募集方法

- ・研究会内容が海外のネットワークとの調整に及ぶため、公示から応募までの期間が短い。上記テーマ設定に関わるが、直前にテーマの内容をせばめないように配慮して欲しい。テーマは幅広くし、NGOの能力強化のニーズに基づいた内容にしてほしい。
- ・募集は事務局を通じて郵送、メール等でかけた。基本的に「研究会」という名称であったので、メンバー団体以外のところや学生さんまでを対象に含めるのは避けてほしいと注意が入った。（シンポジウムではない、またJANARDの宣伝ではないため）
- ・参加資格に、「各省庁共通一般競争参加資格」が必要である。テーマが公示されてから応募までの期間が短いため、適切なネットワークの主体になり得る団体が、必ずしもその資格を持っていない場合には、実質的には応募が難しくなる。本年度の場合、結局申請を見送らざるを得なかったケースを聞いている。（本年度のNGO研究会の場合）

#### (3) 選定基準

- ・今年度について、海外研修地も含めて計画、調整し、企画書を提出した。落札後、治安問題のため研修地を変更することとなった。既に計画したスケジュールでは事業を進める時期に入っており、海外のネットワークとの調整、担当者の負担の発生で苦慮している。テーマにも関わることであるため、応募段階で選定基準やガイドラインの提示をお願いしたい。
- ・三分野＋国別研究会で決められていた。今年から公募の形になったが、公募された時期もこれを追っかけていなければわかりにくいものだったし、公募されてから締め切りまでの時間が短かった。
- ・本年度事業を受託したFASIDは基盤整備の対象となるNGOとなる。結局外務省と関係が深い団体に様々な形で政府資金が流れていくのは当然なのかも知れないが、外務省と資金的・人的に関係がFASIDほど深くない一般のNGOの一つとしては、せっきくのNGO基盤整備予算なのだから、強化の必要な一般のNGOのために使ってほしいと願っている。

#### (4) 予算規模・費目設定・精算方法など

- ・予算自体は海外での研修も実施でき、それなりによかった。

- ・費目設定として人件費にもう少し幅を持たせてほしかった。事務局や講師等には人件費が  
あてられていたが、プロジェクト形成調査団を結成した際の専門家として加わってくださ  
った方々への人件費は計上できなかった。
- ・一枚一枚の領収書がチェックされる方法だったが、今のご時勢を考えると簡略化するのは  
難しいように思う
- ・人件費の算定基礎は何度協議しても変更はできず、難しいとわかったが、それにしても低  
い。

#### (5) 評価方法

- ・どのように評価されているかどうか知らない。
- ・研究会に関する評価は難しい。成果が出るまでに時間がかかるものなので。
- ・外務省の担当者が、研究会活動の意義と内容をよく理解してもらうことを希望・期待する。

### **C 【新規提案等】**

#### (1) 今後に希望するテーマあるいは国・地域

- ・農業・農村開発分野はまだまだ需要がある。
- ・スリランカ（国別 NGO 研究会で2年間活動してきたので基盤があり、より強固な研究会活  
動ができる可能性が高く、資金があれば、スリランカの現地 NGO などとも連携できる可能  
性もあり、スリランカで活動する多くの日本の NGO にも裨益する活動ができると思います。）
- ・マラリア対策
- ・教育向上

#### (2) 今後の研究会の獲得目標設定

- ・ODA の目標・方針があり、その達成のために NGO とのパートナーシップが位置づけられ、  
そのために必要な能力強化のプログラムであるべき。
- ・NGO のネットワークの強化・拡大が中心だが、せっかく外務省の資金なので、可能な場合  
には、JICA、JBIC、外務省などとのネットワークの構築ができるとよい。

#### (3) 今後への新規提案

- ・実施面だけでなく、調査研究、政策提言の面における能力強化も日本の NGO の健全な発展  
のためには必要であるので、こういった分野も対象にしてほしい。
- ・FASID が採択されて、本件についての外務省の考え方に疑問を持った。自由に書いても徒  
労に終るのなら、新規提案ではなく、修正案位から改善していかざるをえないのではないか。
- ・現在の NGO が必要としている部分なので、こういった面での支援枠を広げてほしい。
- ・単年度ではなく数ヵ年支援にしてほしい。